

ごみ減量（レジ袋を削減）

ごみ減量の最初の一步は「ごみを出さない・つぐらない」ことです。日ごろ何気なく使っているレジ袋も環境に大きな影響を与えています。

現在、レジ袋は日本国内で1年間におよそ305億枚が使用されています。レジ袋1枚製造するには原油18.3ミリリットル（業界団体の試算）が必要といわれています。立川市では年間787キログラム（200リットルのドラム缶3,935本分）の原油を消費していることとなります。（日本の人口1人あたり約240枚、立川市人口17万9千人では約4,300万枚として計算）

市内で使用されるレジ袋試算



レジ袋は、作るときに原油の消費や焼却するときのCO2（二酸化炭素）の発生に加えて、いつまでも分解されずに散乱するなど、さまざまな問題を起こしています。

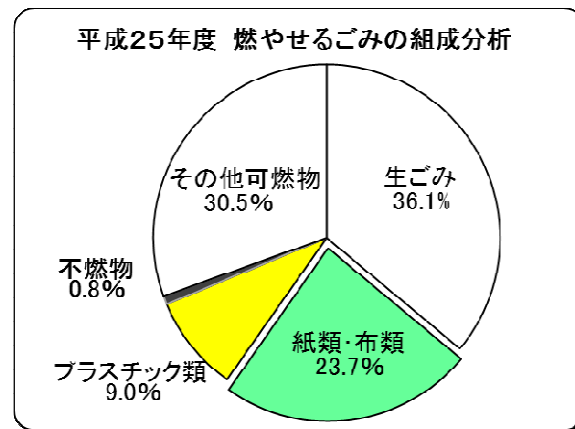
買い物をするときにはできるだけマイバッグを持参し、レジ袋の使用を減らしていきましょう。また、やむを得ず廃棄するときは、汚れを落として資源ごみ（プラスチック）として出しましょう。

もっとリサイクル（雑がみ）

立川市の清掃工場は、老朽化が進み、たいへん心細い状況になっています。新しい清掃工場は用地の選定を行っていますが、稼働するまでには相当な年月が必要です。

立川市では「燃やせるごみ50%減量」を目指して取り組んでいますが、私たち一人ひとりができることは、少しずつでも燃やせるごみを減らしていくことです。立川市が行っている「燃やせるごみの組成分析」の結果（右グラフ）では、燃やせるごみの23.7%が紙類・布類となっています。

特に紙類では禁忌品（下記参照）以外で資源化できる紙類も多く含まれています。ふせんやメモ用紙などの小さい紙、内側がアルミコーティングされた容器（右写真）なども雑がみ（資源ごみ）として出しましょう。



（資源にならない紙・・・禁忌品）

においのついた紙（洗剤の紙箱など）、裏カーボン紙、汚れている紙（使用済みのティッシュなど）、写真、防水加工された紙（紙コップ・紙皿など）、感熱紙、ビニールコーティングされた紙（宅配などで届く商品の包装材など）

ごみ減量・リサイクル推進委員会……市民、事業者と行政が一体となって、ごみ減量とリサイクルの推進を図るために活動しています。次号以降もごみ減量に向けたメッセージをお届けします。

立川市
総合リサイクルセンターだより

西砂からの風

2015年9月（第26号）

発行/立川市ごみ対策課

引き続き、燃やせるごみ50%減量を目指します。（平成19年度比）

未来へつなごう

ごみ処理基本計画を改定

ごみをつぐらないライフスタイル

ごみ減量とリサイクルを推進するには、ごみ発生量そのものを減らすことが必要です。市は、立川市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（以下、ごみ処理基本計画）を改定し、さらなるリサイクルに加え、「ごみを発生させない」「ものを再使用する」など、ごみをつぐらないライフスタイル・ビジネススタイルへの転換を推進します。皆さんもできることから始めましょう。

2Rの推進

Reduce（リデュース）

ごみの発生抑制

- ・マイバッグを持参し、レジ袋はもらわない
- ・生ごみの水切りを徹底する
- ・過剰な包装は断る
- ・必要以上の量は買わない
- ・料理は食べきれ的分だけつくる
- ・お弁当や惣菜の割り箸を断り、マイ箸を使う
- ・外出するときは、水筒やマイボトルを持って行く

など

Reuse（リユース）

再使用

- ・壊れたら修理して使い、大切に長期間使う
- ・まだ使えるものは、フリーマーケットやリサイクルショップを利用し、必要な人に譲る
- ・詰め替え製品を購入し、容器（ボトル）などは再使用する
- ・紙コップ、紙皿よりもリユース食器（陶器・ガラス・木器など）を使用する

など

ごみの発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、分別した資源の再利用（リサイクル）を3Rといいます。市は、3Rの取り組みのうち、より環境負荷の少ない「リデュース」や「リユース」の2Rを重点的に推進していきます。